

越谷御殿について

― 小杉藤左衛門の墓 ―

石塚 吉男

その墓は、越ヶ谷の天嶽寺の参道の山門の前にある無縁墓地の片隅に置かれてある。

御殿番の一人(ほかに浜野藤蔵)小杉藤左衛門尉景房は、新編武蔵風土記稿の「越ヶ谷宿」の御守殿蹟の項に、

宿の亥の方にあり、慶長の頃よりの御殿なりしが、明暦三年江戸の回禄にて、御城の内も焼失ありしより、御仮殿にかの地へ移させられ、其蹟御林となり、当所の民小林藤左衛門・浜野藤蔵二人御林守たりしが、元禄八年検地の時貢税の地となり、御膳所の跡のみ御林を存せり、今に御守殿蹟又権現林といへり、とある―藤左衛門のことで、小林とあるは明らかに活字版の誤植である。

福井猷貞著の、越ヶ谷瓜の蔓には、
一、今野地百姓小杉藤左衛門先祖の義、小杉藤左衛尉景房と相名乗り、天正以後落居之者、出羽(会田)、八右衛門(同)等と申合せ三度御検地請、慶長年中増林より御守殿引、越谷へ造立改節は浜野藤蔵と両人にて御守殿勤 云々とある。

小田原北條家の浪人と伝えられる小杉家はいつの頃家系が絶えたのか、離散したかは定かでない。その後永らく隣の墓地の所有者が好意もって管理されて

いたが先年墓地整理のため無縁墓地に移されたとのこと、越ヶ谷御殿が幻の御殿となってゆく過程がここにもうかがわれる。

因に会田出羽家の由緒書に、

小杉藤左衛門子孫

本所猿江菊川町 伊賀同心 武野平蔵 御家人

小杉丹次 浜野藤蔵子孫

深川伊勢崎町 御広舗御用人 浜野藤蔵

同じく越ヶ谷御殿番小杉藤左衛門子孫

越ヶ谷町百姓 藤左衛門

越ヶ谷宿の嘉永元年写しの御殿地起立に関する文書に

御殿番浜野藤右衛門の子孫として、悴の源助、同藤蔵(源助改メか)藤蔵悴丈太郎の名が見え、同御殿番小形藤左衛門の悴、藤兵衛の名がある。

また浜野藤蔵由緒書には、

御台様御用人支配 万寿姫君御侍 浜野藤蔵、先祖

浜野藤右衛門 先祖浜野平吉(川船極印改役)等が

見える。

前に挙げた越ヶ谷瓜の蔓に

西名主浜野藤次郎が越ヶ谷宿草創の名主にて、元禄年中藤右衛門と称していたが家内に不都合が生じ越ヶ谷を退転し其後浜野十次郎と申し、江戸表にて御賄方下役を勤めたことが記されてある。これらによると、明暦三年振袖火事による江戸城焼失のため、越谷御殿が城内に引移された後も、浜野・小杉の両家は、「將軍家御見知り置きの者」として、軽輩ながらも直參御家人として用いられたことが知られる。